

2016年10月近況報告 南スーダン現況レポート

目次

1. 緒言.....	1
2. 最近のできごと.....	1
3. 政治的状況.....	1
4. 経済的状況.....	2
5. 社会的サービス.....	2
(1) 教育.....	2
(2) 保健.....	2
6. 日本を訪問した子供たち.....	2

1. 緒言

私は、2016年7月のジュバの大統領官邸で起きた危機の後の南スーダンの現況について、この簡潔な報告をできることをうれしく思います。

2. 最近のできごと

2016年10月8日、日本国防衛大臣、稲田朋美氏が南スーダンを訪れました。彼女は、南スーダンの陸軍省副大臣である David Yaw Yaw 中將に迎えられました。彼女の目的は日本の軍隊¹の南スーダン内での働きを監督するためでした。日本は、南スーダンが2011年に独立した後に、南スーダンのインフラ整備に協力するため、平和維持ミッションである UNMISS (United Nations Mission in the Republic of South Sudan、国際連合南スーダン派遣団) に2012年から軍隊を送り始めました。2013年12月15日に南スーダンは政府軍と反対派の紛争に陥りました。2015年8月に平和協定が結ばれましたが、2016年7月に新しい戦いが首都ジュバで始まり、300人の人々が死に、多くの人々が避難しました。

国連安全保障理事会により承認された4000人の軍隊による介入と保護は、南スーダンの UNMISS の平和維持軍の中で存在感を示すでしょう。この平和維持軍は地域保護軍を含み、首都ジュバ周辺の安全な環境を提供し、人道的、経済的、政治的な状況を改善することがその役目です。

3. 政治的状況

南スーダンは2011年7月9日に独立を果たし、UNMISS は2011年7月8日に設立されました。国連安全保障理事会決議第1996号(2011年)は南スーダンを国連194番目の国として歓迎しました。

¹ 自衛隊のこと。原文では Japanese Troops と記載されているため、「日本の軍隊」と訳しました。

一方で、在南スーダン国日本大使紀谷昌彦氏は、国連の軍隊がジュバに到着した時点では日本の開発支援プロジェクトは短期間で再開されると述べていました。日本は再開すべき多くの開発支援プロジェクトを持っており、例えば40万ドルの費用がかかる自由橋（Freedom Bridge）などがあります。

南スーダンが4,000人の国連軍を受け入れたことは特筆すべきことです。しかし、国連安全保障理事会決議2304号によりいくつかの条件を付されています。政府は国内の現状を理解した上で平和な状況に落ち着けるために国連安全保障理事会と対話をしていく必要があります。

4. 経済的状況

経済的状況は依然悪く、政府中央銀行の交換レートでは1米ドル=6.6南スーダンポンドですが、ブラック・マーケットの交換レートでは1米ドル=7,500南スーダンポンドです。市場での物価は非常に高く人々は自家の周囲で作られた野菜に頼って生活しています。9月の給料は払われておらず、公務員は国民議会が2016-2017年の新しい予算を承認するのを待っています。しかし、これが承認されても、現在の市場の経済的危機を解決するのは難しいかもしれません。

5. 社会的サービス

(1) 教育

識字率は83%と非常に高く、南スーダンでは伝統と文化が共同体で現在でも非常に強いいため、字が読める人の多くは地方部にいます。ジェンダーは現在でも課題で、男性の方が女性より尊重される傾向にあります。家族は、女性は持参金を運んでくる人だとみなしており、女性が早くに結婚することにつながっています。一連の危機の間に多くの学校が閉鎖し、支払われない給料を理由として教師は仕事を放棄してしまいました。また少年たちは SPLM-IO（スーダン人民解放運動反対派）などの軍事勢力に加入してしまっています。私が住んでいる地域では、学校がないために学校にいけない子供が沢山います。学校は遠くにあり、家族は自分たちの子供を遠くに送り出すことを恐れています。唯一の解決策は保健と教育の大切さを親たちに気付かせ、学校の建設に貢献することを促すことです。これを実行するには、土地、建物、教育設備、教師の月給、給食等の支出をカバーするための資金が必要で、これらがあれば子供たちは勉強を続けることができます。

(2) 保健

現在、南スーダンには利用可能な正規の保健サービスはなく、設備の整った病院や医薬品もありません。衛生状況は悪く、清潔な飲料水は入手できない上、マラリア、腸チフスがよく見られるなど、疾病が蔓延しています。これは正規の保健サービスが存在せず、設備の整った病院がないことが原因で、多くの患者が国外の病院を受診しに行きます。薬は非常に効果で、例えばパナドール（訳注：国外で用いられる解熱鎮痛薬で、海外通販サイトでは100錠が10-20米ドル程度で入手できる。）を入手するには5-80南スーダンポンド程度かかります。

この状況を改善するためには、保健サービスと良好な環境を提供するために、一定の領域の治療に対しては助成を行うことを定着させる必要があります。

6. 日本を訪問した子供たち




2011年、6月29日から7月8日にかけて、ロシナンテスの代表、Dr.川原のイニシアチブで、20人の子供たち（10人は南部から、10人は北部から）が日本の地震、津波の被災地での運動会に参加するために、日本に招待されました。このツアーの目的は、スーダンの子供たちが、地震と津波の災害で両親、恋人、財

産を失った日本の子供たちと一緒に運動会に参加することで、日本の人々を勇気づけ、笑顔を届けることでした。この災害では 25,000 人の人が死亡または行方不明となっています。もう一つの目的は、スーダンの子供たちが京都や長崎などの、日本の歴史的、文化的な場所を見学することでした。

南スーダンがスーダンから独立するまさに前夜の 2011 年 7 月 8 日、スーダンの子供たちの使節団は日本からハルツームに帰還しました。その後、南スーダン出身の子供たちは南スーダンに戻り、兄弟や愛する人、そしてスーダンの友人たちとともに、新しい未来を生きることになったのです。

2011 年半ば、ロシナンテスからのチームがジュバを訪れました。アカネ氏と Jo 氏が日本を訪れた子供たちに会ったのです。彼らは私の家で日本を訪れた時のビデオを見ながら楽しいひと時を過ごしました。2012 年、ロシナンテス代表の Dr. 川原がジュバを訪れ、Dr. John Garang を訪問しました。そしてジュバを見て回り、最後には私の家で家族と一緒に食事をしました。それは親密な夜の会合で、我々の家族は Dr. 川原が難しい時期に親切にも我々を訪問してくれたことを感謝します。南スーダンは我々の国ではありませんでしたが、50 年もの間を経てようやく戻ってきた時であったのです。スーダンでは我々はほとんどハルツームに住んでおり、その時はスーダンは一つの国でしたが、今は二つの国になっています。南スーダン人は日本人のリーダーシップと親切な人柄、そして支援に対して感謝しています。

私は南スーダンとスーダンの子供たちが独立前、2011 年に日本に来ていい体験をしたことを思い出しました。子供たちの写真と現在の考え、そしてロシナンテスが彼らの未来を助けてくれるよう願っている思いを以下に載せます。

1		<p>Arou Bol</p> <p>スーダンの子供たちの一団の中で一番若く、面白い少年です。彼はジュバにおり、両親が離婚したために、4 人の兄弟と一人の姉妹とともにジュバの叔母のもとに身を寄せています。家族の問題と経済的危機により彼はハルツームでの Comboni College での勉学を、2 年前に第 6 学年で中断せざるを得ませんでした。誰も彼のことを助けてくれないからです。彼は勉強を続けたいと思っています。彼は両親の愛とケアがなくなったことを寂しく思っており、ハルツームの父親の下に行きたいと考えています。しかし、彼と彼の兄弟姉妹の航空券を得る手段はありません。</p>
		<p>私自身と私のジュバの事務所を訪れた私の息子たちです。息子たちはいずれも現在ジュバにいます。</p>
2		<p>Jur Marial Gabriel</p> <p>現在 18 歳で、南スーダンの中等教育卒業資格テスト (2015/16 年度) を受験し 65% の卒業を修めました。彼は国内、国外を問わず大学に進学したいと考えています。彼は英語能力に問題があり、ある程度の期間、彼は英語のコースに参加して勉強したいと考えています。彼が勉強したい分野は、経営管理、会計、そしてコンピューター・サイエンスです。</p>

3		<p>Yor Gabriel Roric</p> <p>彼は現在ウガンダ・キリスト教大学の法学部の学生です。彼はロシナンテスの代表と〇〇氏に、その支援を感謝しています。彼らは 2016 年から、彼と彼の兄弟の Jur に対して親切的な支援をしてくれています。</p>
4		<p>Jur Gabriel Roric</p> <p>彼は現在ウガンダ・キリスト教大学で国際関係学・行政学の学生をしています。彼はロシナンテスの代表と〇〇氏に、彼と彼の兄弟である Yor に対する支援を感謝している。彼はいつもロシナンテスのために祈っています。</p>
5		<p>Beauty Philip</p> <p>彼女はハルツーム・アカデミーで航空技術について学び、卒業しました。彼女は Dr. 川原が日本に彼女を連れて行ってより多くのことを学ぶ機会を与えてくれたことに対して感謝しています。</p>

次回は他の子供たちも紹介する予定です。

紙の祝福があなたがた全員にありますように。

感謝